

1. インターバンク市場

2/29~3/4の無担保コール市場は、先週から引続き、0%を中心に取引が行われていた。日銀当座預金残高については、2日の税・保険料揚げがあったため、4日時点では前週末より3兆円程度減少の256兆円1,000億円程度となることが見込まれている。無担保コールO/Nは引続き▲0.01~0.001%を中心に、狭いレンジで取引が行われた。積み後半を迎え、今積み期の所要や税揚げの金額がある程度固まった事を受けて、今までオファー・ビッドを控えてきた参加者が動き始めた事もあり、前週と比較して0%前後でのオファー・ビッドが増加した。無担保コール市場残高は、前週は3兆円前後で推移していたが、今週は3兆円台後半~4兆円台へと増加した。無担保コールO/N加重平均レートは、概ね若干のマイナスで推移した。ターム物については、1W~1Mの期間で▲0.01~0.001%のレンジを中心に散発的な出合いが見られた。固定金利方式の共通担保オペは3日に3M・8000億円でオファーされ、応札は190億円(期落ち額450億円)と札割れの結果となった。

3/7~11の資金需給については、10日にTB6M発行超過要因があるものの、ある程度の払いで相殺されると見込まれるため、1兆円を超える過不足日は無いと予想される。主要なイベントとしては、8日の10-12月期のGDP 2次速報、10日のECB定例理事会が挙げられる。ECB定例理事会では追加緩和が予想されており、その内容(量・金利・階層方式の導入など)にも注目が集まる。

2. オープン市場

2/29~3/4の短国市場は、取引閑散の中、レート水準を探る動きが続いていた。週前半の3M物は取引目線が概ね▲0.10%となっていたが、週後半に入ると3Mゾーンの荷もたれ感からかやや弱含む水準での出合いも見られた。その一方で、期末越物のニーズから4月償還物で積極的な買いも見られていた。6M物や1Y物は週を通して出合いは見られず、一般的には材料乏しく閑散な相場となった。3日に実施された3M物の入札は、WI取引で▲0.10%が少額出合う中、平均落札利回▲0.1018%、按分落札利回▲0.0902%と堅調ながらも按分は事前予想より若干小甘い結果となった。セカンダリーは▲0.102~▲0.095%での出合いが見られた。4日には短国買入オペが前回と同額の7,500億円でオファーされた。平均利回較差+0.022%、按分利回較差+0.018%と、一般的にレートが低下している中、足許の在庫の重さから小甘い結果となった。

2/29~3/4のCP市場は月初であったため、発行は閑散であった。期末の有利子負債圧縮の動きから期越物の発行が少なく、週間償還総額5,700億円程度に対し、ノンバンク、商社、鉄鋼、機械、石油業態からの大型発行案件が見られたものの、週間発行総額は3,700億円程度にとどまった。償還超となったことから、市場残高は17兆円を割り込み16兆円後半での推移となった。発行レートは引き続き業者の買いや、投資家目線の低下から、一般事業法人の期越物中心に0%の水準で多くの取引が見られた。

3/7~11の短国市場は8日に6M物、10日に3M物の入札が実施予定となっている。6M物はオペ見合いでの購入ニーズから、強い水準での入札結果が予想される。CP市場は、7日にCP等買入オペが5,000億円でオファー予定となっている。

3. 資金需給および国債等

銀行券は週間で2,100億円程度の還収超見通し。財政等要因は、3,300億円程度の揚げ超見通し。以上により、今週の資金需給(日銀調節を除く)は週間で1,200億円程度の資金不足を予想する。国債・借入金(日銀償還は除く)の動きは次の通り。<7日>TB3M;償還47,800億円・発行45,000億円 / 流動性供給;発行3,000億円<9日>交付税特会借入;期日10,500億円・新規10,500億円<10日>TB6M;償還23,200億円・発行35,000億円 / 物価連動10Y;償還300億円 / 交付税特会借入;期日10,500億円・新規10,500億円

2016年	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ	期日	新規実行	オペ合計	実質過不足
3/7(月)	1,100	△ 4,300	△ 3,200	全店共通(固) CP買入 成長基盤強化	△ 500 △ 700 △ 100	200	△ 1,000	△ 4,200
3/8(火)	1,000	3,000	4,000	短国買入 国債買入		7,500 12,600	20,100	24,100
3/9(水)	0	2,000	2,000				0	2,000
3/10(木)	0	△ 7,000	△ 7,000	CP買入		5,000	5,000	△ 2,000
3/11(金)	0	3,000	3,000				0	3,000
週間合計	2,100	△ 3,300	△ 1,200		△ 1,300	25,400	24,100	22,900

(注) 上表の3/7は日銀予想、3/8以降は当社予想。

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
3/7(月)	読売国際経済懇話会にて黒田総裁講演 2月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 1月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)		1月の米消費者信用残高 2月のFRB 労働市場情勢指数
3/8(火)	10-12月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 1月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 2月の景気ウォッチャー調査(内閣府 14:00) 2月の消費動向調査(内閣府 14:00)	TB6M 35,000億円 3/10発行	30Y 8,000億円 3/22発行
3/9(水)	2月のマネーストック(日銀 8:50)		1月の米卸売売上高
3/10(木)	2月の企業物価指数(日銀 8:50) 1月の特定サービス産業動向統計速報(経済産業省 13:30)	TB3M 45,000億円 3/14発行	5Y 25,000億円 3/22発行
3/11(金)	1-3月期の法人企業景気予測調査季報(内閣府・財務省共管 8:50) 1月のマネタリーサーベイ(日銀 8:50)		エネルギー 対策借入 2,500億円 3/22借入

本資料の内容は、十分信頼し得る情報・データ等に基づいて作成しておりますが、内容の正確性については弊社がこれを保証するものではありません。掲載内容のタイトル・日時・地域等につきましては、お取引先様各位にて別途ご確認戴きますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関 関東財務局長(登金)第526号 日本証券業協会加入